

=====

ふくしま

2015. 1. 15

## 復興支援フォーラムニュース No. 85

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com))

=====

### 第82回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

2014年12月26日。第82回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

今回は、佐藤政男氏（元徳島文理大学教授・福島市在住）から、『福島いま』を伝え続けて」について、報告をいただきました。21名が参加し、熱心な質疑応答がなされましたが、会場で文書提出されたご意見等は、以下の通りです。

~~~~~

★ 私自身も様々な機会につたないながら被害報告や現地視察案内をさせていただくことがあったため、本日の講演は、「伝えること」のスタンダード・ナンバーと医学・薬学という専門分野のプラスアルファを、（普段ならば当然、伝える側であって、あえて聞く側ではない話を含め）率直な気持ちで何うことで、自分はスタンダードな話を、客観的に、説得的に伝えられていたのだろうか、自分自身のプラスアルファを十分活用できただろうかという調律の機会を得ることができました。ありがとうございました。(D.Y)

★ 初めて参加させていただきました。82回の継続すばらしいです。福島が良い地域になっていくためには、市民力が大切だと思います。(H.T)

★ 原発事故による本県の実態について、外部（他県）の人の見方等について、県内に居住する者として、改めて認識することができました。(K.F)

★ 「福島いま」とは、何を指すか、考えさせられた。(Y.M)

★ 私は4月から福島に戻っていますが、やはり感じるのは、福島とそれ以外の原発に対する認識の違いです。それはやはり、報道の姿勢の違いによるものが大きいかと、今日のお話を伺って実感しました。知らないことによる風化と、反対に「福島」と聞くだけで、ヒステリックな拒絶反応をする人との両極化が起きているように感じています。どうしたら、冷静に、正確に現状を伝える事ができるか、真剣に考え直さなければならない時期に来ているのかなと思います。ありがとうございました。(J.H)

★ いかに関心を自分のこととして考えることから行動していく（していける）と考えています。(Y.I)

★ 原発事故の実相とともに、残したものを、特長を明確化することは、確かに必要ですね。(N.H)

~~~~~

【予告】第84回フォーラム 2015年1月29日（木）18:30～20:30

「食と農でつなぐ ー福島・女性農業者の取り組みー」

報告者：岩崎 由美子 氏（福島大学教授）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1

# 第3回国連防災世界会議と福島の復興

鈴木 浩

## 1. 第3回国連防災世界会議（メイン会場：仙台）の関連事業をなぜ福島で開催するか

- ・福島原発災害の特別な課題と使命
- ・国連が提起するヒューマン・セキュリティにどう応えるか  
「ヒューマン・セキュリティ」－住まいとプライバシー（個人の安全）、食糧、健康、環境、地域コミュニティ、経済・生業、情報と参画（政治的安全）  
※「Taigan no Kaji 日本には対岸の火事ということわざがある。ヒューマン・セキュリティについて、国際的にはもっとも貢献している国の一つである。しかし、国内のヒューマン・セキュリティについてはあまり関心がないようだ」(Edited by Paul Bacon & Christopher Hobson “Human Security and Japan’s Triple Disaster”, 2014, p. 1)  
わが国では「基本的人権」をどう守り育ててきたか。
- ・防災と緊急時対応→透明性が高く迅速かつ的確な情報提供のできる仕組みは？

## 2. 福島原発災害の特質と復興

- ・自然災害と原発災害の違い  
広域的・長期的避難が強られること、それによって分断されたり、関与する主体が広範に及び、合意形成が困難になる。「合意形成」の共通理解も必要。
- ・初動期の対応－「安全神話」の落とし穴
- ・原発の収束と中間貯蔵施設の立地によってその地域の自治体の復旧・復興の見通しが著しく困難になっている。
- ・被災自治体は、個別に「復興ビジョン」、「復興計画」を立案しているが、その遂行は極めて困難である。  
\*「福島復興加速化」、「福島再生加速化」の使い分けやその事業制度と運用の問題
- ・時間の経過とともに被災者の帰還意向は大きく変化してきている。
- ・市町村は「一人一人の生活再建」と「ふるさとの復興」をそれぞれ進めていかなければならない。
- ・市町村の存廃問題も内包しているが、対応の方向は？

### 3. 避難生活支援の課題

- ・地域コミュニティの分断－共助の崩壊、公助・自助は？
- ・長期化する仮設住宅の問題－住まいとしての質の低下やそもそもの低水準を何によって改善するか、民有地借地仮設のタイムリミットは？
- ・深刻な「みなし仮設」問題－民間賃貸住宅の社会的なルールの欠落
- ・復興公営住宅供給を含む二段階避難（町外拠点）の課題－二つのコミュニティ論

### 4. 浪江町の復興計画

### 5. 災害復興と時代的特質

- ・長引くネガティブ・スパイラルの中での災害→復興に大きく影を落としている
- ・軌道修正する力は何か－社会的共通価値観の構築が必要ではないか
- ・その一つとしての地方自治・住民自治の再構築に向けて

### 6. まとめ

- ・生活再建とふるさとの復興に向けて

政府・自治体・住民そして専門家などによる情報共有と合意形成のガバナンスの仕組みを  
(①透明性の高い情報開示と情報へのアクセスを確保した情報プラットフォームの構築、  
②住民参加と合意形成のラウンドテーブル、を提案したい)

以 上